

メッシュは接続がやさしいのはもちろん 接続後だって快適です!



メッシュの場合

自動復帰するので
走行中に余計な操作をする必要がない

メッシュはそもそも「誰とつながる」という概念がない。グループから外れても、再接続は30Kが周囲の誰かに自動的につながっていくため操作は不要。接続操作から解放されたメッシュ・インターコムの使い勝手は快適そのものだ

「もしも途中で
仲間とはぐれてしまったら…」



Bluetoothの場合

グループに復帰するには操作が必要
そして誤操作をしがち

グループ通話が「1本の鎖」のようにつながっているBluetooth。鎖の途中の人が一度圏外になって再接続する場合、つなぐ相手を選ぶなど操作が複雑で、ボタン操作を間違ってしまったらしてうまくつながらないことがある

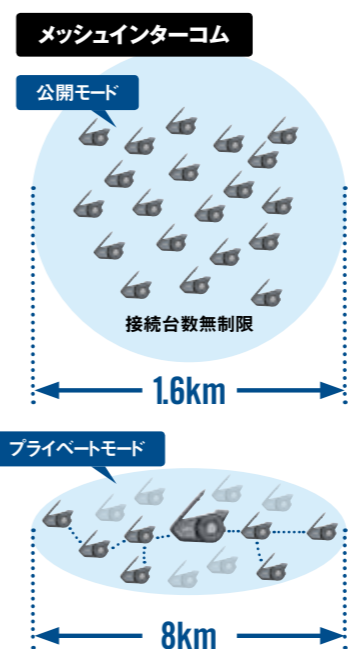
一度使ったら、もう離れられない!

セナ・メッシュの魅力

“一本の鎖”と“網の目”。これがBluetoothとセナ・メッシュ・インターコムの大きな違いだ。グループ通話でメンバー同士が網の目のようにつながっているから、グループが切れにくい。えにもう一度グループに参加する場合も、煩わしい操作をすることなく、すぐにつながってくれる!

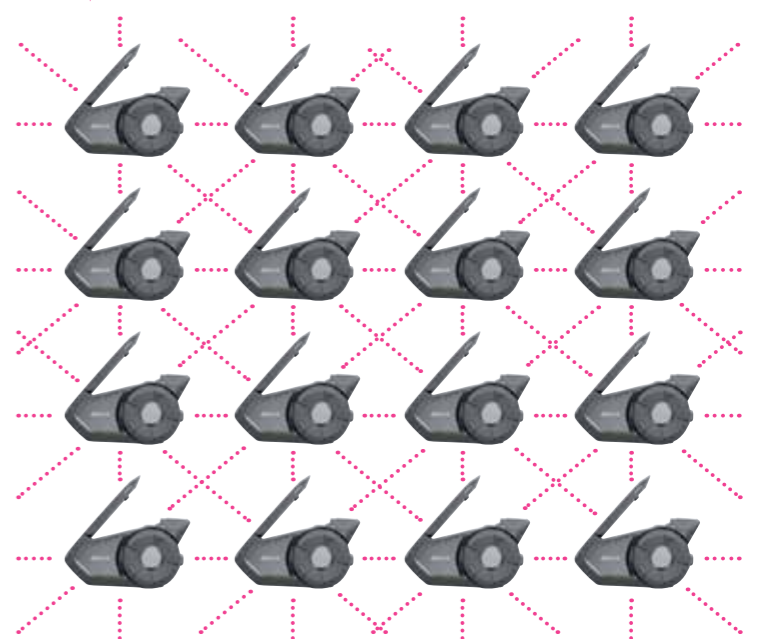
文/八百山ゆーすけ 問:セナBluetoothジャパン <https://senablueetooth.jp/>

そもそもメッシュって何?



POINT 2 2つのメッシュモード

メッシュ・インターコムには2つのモードがある。公開モードは1.6kmの範囲内で人数制限なく接続が可能。プライベートモードは2kmの範囲で最大16人と会話でき、5人以上の接続なら約8kmの長距離通信が可能



POINT 1 網の目状につながる

メッシュ・インターコムは、30K同士を「メッシュ=網の目状」に接続する新しい通信技術。複数のルートでつながるから、中継役だったグループの誰かがたとえ通信圏外になっても、自動的に別のルートで接続されるので、グループ通話が途切れないのが最大のメリットだ

「誰と誰がつながっているから、まずは誰とつながって」なんて接続の順番を考えながら、何度もボタンを押したりと手順が多い。何よりその最中にボタン操作を間違えてしまうと、さらに混乱するという負のスパイラルに陥ってしまう。そんなグループ通話の煩わしさを解消してくれるのが、セナの「30K」だ。Bluetoothとセナに加えて「セナ・メッシュ・インターコム」という独自のグループ通話技術を搭載。本体上面のメッシュボタンを押さえれば、自動的に周囲の30Kとつながってくれる。「メッシュ」の文字通り、グループの30K同士は網の目状に接続されているから、簡単には接続が切れない。たとえグループから離れて通信圏外になったとしても、再び接続するのは30Kが自動的に周囲のメッシュ・ネットワークを探して、すぐに接続してくれる。メッシュ・インターコムであれば、Bluetoothとインターコムで気になっていたグループメンバーの並び順や、操作の手順をまったく気にすることがない。言うなれば、スマホで一度接続したWiFi-Fiが周囲にあれば、自動的につながるのと同じこと。30Kのメッシュ・インターコムは、ケータイがスマホに進化したように、一世代進んだ使い勝手が最大の魅力だ。

「スマホがWiFi-Fiにつながるような使い勝手」
インターコムを使ううえで、意外と難しいのがグループ通話だ。最近のモデルは3人、4人でグループ通話ができるものが多いが、その接続は意外と煩わしい。というのも、インターコム同士の接続が「一本の鎖」のようにつながっているため、メンバーの接続順が重要。一度グループ接続ができても、休憩などで電源を切ったり、走行中にメンバーの一人が通信圏外になってグループの接続が切れてしまうと、再び接続するとなるといくつかの操作が必要になる。

30K

価格:4万2552円(ソロ)
8万1864円(ペア)

セナ・インターコムのフラッグシップであり、メッシュ・インターコムとBluetoothの2つの通信方式を搭載。最大8km、人数無制限のグループ通話を実現しながら、従来のBluetoothと通話できる、ハイブリッドなモデルだ

サイズ:メインモジュール:L102×W56×D27mm
スピーカー:40.0mm/厚み6.5mm
ブームマイク:190.0mm 重量:61g
通信距離:Bluetooth:最長2000m(見通しの良いところ)
Mesh:最長2000m(見通しの良いところ)

